

「2009北東アジア経済発展国際会議」  
からの政策提言

ERINA調査研究部長 中村俊彦

## 多国間経済協力をトラック2で

2009年2月16日(月)ー17日(火)  
新潟市・朱鷺メッセ

参加者

350人(内、外国人90人)

主催

北東アジア経済発展国際会議実行委員会(新潟県、新潟市、ERINA)

プログラム

基調講演

分科会A: 省エネルギー

分科会B: 食料安全保障

分科会C: 環境協力

分科会D: シームレス物流





**基調講演 ハバロフスク地方知事 ビクトル・イシャーエフ**

(代理:ウラジミール・スィルキン副知事)

「2020年までのロシア連邦社会経済発展コンセプト」(2008年決定)ー原料輸出型では限界、経済構造の多様化へ

経済危機ー緊急の緩和措置が必要で、未加工原料の輸出に対する輸出税の一時的撤廃などが必要となる



**基調講演**

**中国社会科学院国際問題研究学部主任 張瀟嶺**

2008年12月、初めて単独で開催された日中韓首脳会談は、三カ国協力の新たなトレンド

今後の協力可能性分野として、日中韓投資協定の締結促進、北東アジア非公式首脳会合の開催、北東アジア一日生活圈、北東アジアフリーツアー、北東アジア契約労働プロジェクトなど



**基調講演 早稲田大学アジア太平洋研究センター教授  
天児慧**

詳しくは、きょうの基調講演にて  
ASEAN+3+3の最後の3は将来、ロシア、モンゴル、北朝鮮になるかもしれない

# 交流、も大切

継続も、大切。北東アジア研究ネットワーク



## 省エネルギーも一つのエネルギー資源

分科会A  
北東アジアの省エネルギー協力

詳しくは、この後。



## 提言目標：北東アジア食料産業クラスターの形成へ

### 分科会B

北東アジアの食料安全保障

### 基調報告

エヴァ・ボヤール(ルブリン大教授):  
ポーランドのクラスターとそのインパクトについて

斎藤修(千葉大教授):日本の食料産業  
クラスターとフードシステム

### 研究報告

木南莉莉(新潟大教授):中国の事例  
および国際連携に関するアンケート分析

イ・ビョンオー(江原大教授):韓国の  
食品産業クラスター育成政策

森嶋輝也(北海道農業研究センター  
主任研究員)北海道における大豆クラ  
スター形成の試み





## ERINAはCOP14(2008 ポズナン)、COP15(2009 コペンハーゲン)にオブザーバー参加。

分科会C

「ポスト京都議定書」における北東アジア環境協カスキーム

北東アジア諸国は、共同カーボン市場の開発調査を行うべきであり、ポスト京都時代でも、各国の持続可能な発展目標に見合う市場ベースの活動(CDM/JI)行うべきである。

ポスト京都体制の政策策定において、京都アプローチの継続を超えた可能性を探るべきである。この取り組みの中では、各国個別の事情に注意を払い、それぞれの能力を勘案することが大切である。

我々は、ポスト京都体制におけるCDMなど、市場ベースのメカニズムの継続と改善を目指さなければならない。



## 国際協力プラットフォームの活用、先導的プロジェクトの推進など

分科会D: 北東アジア・シームレス物流

詳しくは、この後。

